追悼号：上野民夫先生の思い出

上野民夫先生との思い出

山岡寛史

Hiroshi YAMAOKA

大阪府立大学名誉教授

巨星墜つ。ちょうど30年間公私ともに節目で電話やメールで相談に乗ってくださりなにかとお世話になりっぱなしでした。鮎鱈の会では毎年先生の大広間指定席にうかがってしばし2人きりで近況ご体調など伺う機会がありました。ご自身によれば当日に病院を抜け出されてのご参加もたびたびであったようで、細部に至るまで先生の方からお話しくださることも多かったのですが、今年は少しいつもの年とは違ってお言葉やごことなく私の目にはお寂しそうな様子などもあって気になっていたのです。お別れはつらいです。

思い出深い三つのエピソード：

【その1】(7年前に嵐山らんざんでの関西談話会で小生が最終講義の機会を賜った際の話の枕につかった話題の再現ですが) 博士課程院生最後の1974年秋に仙台で有機化合物のマススペクトロメトリー討論会に初参加させていただいたとき、セッション会場に入って拝聴した最初の口頭発表(たしか構造のよく似たモノサッカライドのCIスペクトルのパターン相互に違いが見られたのでCIで単糖の構造識別ができたとの内容)の(CIで糖の絶対構造がわかるというはなはだ画期的なご発表をいただき…と座長の宮崎浩先生はさらりとおっしゃった阿吽の呼吸で)質疑応答で真っ先にかみつかれたのが上野先生で、糖は(キラル識別は)そんな簡単なもんやないですよ、が第一声。有機の溶液反応が専門だった小生が質量分析の専門学会に初参加した時のきわめてインパクトのあるシーンでした。

【その2】MSSJオフィシャルの思い出は、2003年1月8日に田中さんのノーベル化学賞受賞記念講演の実行委員長を仰せつかった講演会当日のことで、(マスコミと一般参加者がヒートアップしていた当時の状況下で)大阪国際会議場の報道席最前列に陣取られた上野先生は山岡亮平先生とお二人で、多数の報道関係者のメインホール内対応を見事に仕切ってくださいました。平素から親しくお付き合いをいただいていたうえにマスコミ対応のノウハウを熟知されている両先生でなければできないことでした。

【その3】関西で開催予定のBMSコンファレンス(2000)の会場探しで、神戸三田界隈のフルーツフラワーパークをご提案したところ、BMSの関西地区事務局会議を彼地で下見/評価を兼ねて泊まりこみで計画くださり、夜が更けたころ「ここはかなりええで」と同じフレーズを2回もくりかえしてくださったときの喜びは、やっとなんて先生のお役に立てそうかとなにもものにもかえがたいことでした。たぶん、敷地の広大さと高速からのアクセスと隣接するゴルフ場がお気に召したのかと思われます。

先生への感謝の気持ちはつきませんが…合掌

(2018年9月18日訃報メールへの当日返信から一部抜粋)